

【⑤ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修】研修体験報告書（1）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 1年 女性
研修期間	2019年2月27日～2019年3月20日
研修先の国、研修先・訪問先	国：アメリカ合衆国（ウィスコンシン州） 研修先・訪問先：ウィスコンシン大学ラクロス大学
研修参加目的・動機など	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで勉強してきた自分の英語が、アメリカで実際にどれくらい通用するのか知りたかった。 ・異国の文化や人に触れ合い、初めての経験や気づきを得たかった。 ・ホームステイをずっとしたいと思っていた。
研修参加を考え始めた時期	研修の半年前くらい
求められた語学力 及び具体的な準備内容	<p>(求められた語学力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校レベルの英語 <p>(準備内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の会話で使えるような英語を、研修と一緒にいく友達と少し勉強していた。
情報収集方法	ホームステイ先の方とメールでやり取りをした
居住環境	初めの約20日間はホームステイ先で、残りの約10日間はホテルに滞在。
研修先に持参した方がよいもの	変換電源プラグ（Aタイプ）、ホームステイ先の方へお土産（日本らしい物）、登山用ブーツ（積雪量が多いから）
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	ほぼ変わらない。
研修の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	総額約55万円
治安状況	単独行動や深夜出歩いたりしなければ問題ない。
その他注意すべき事項	基本的に現地の人は就寝時間が早いため、ホームステイ中、夜はできるだけうるさくしない様にし、生活リズムを合わせるようにする。

留学・短期研修等体験レポート（自由記述）

この研修で身についた能力は3つあります。1つ目は、自分の恥を捨て、まずは挑戦する選択をする能力です。このアメリカ研修は、事前に大まかなスケジュールが決められており、私達参加者にも事前に具体的に伝えられていたため、計画も立てやすく安心でした。しかし、決められている1つ1つの活動にどう取り組むかは自分次第であり、計画は立てられていても即興に自分で選択する機会が多くありました。その中でも私が一番葛藤した選択は、現地の学生3人と日本の学生3人で約300人の学生の前で両国の文化や両大学について1時間ほどディスカッションするというもの（Coffee Hour）でした。それも3日前くらいにメンバー（一緒に研修した学生）に伝えられたため、驚きました。失敗したらどうしよう、ここは他のメンバーに任せようという気持ちが一瞬頭を過ぎりましたが、英語を母語としない私が間違えるのは当たり前だし、ここで挑戦しなくて後悔する方が嫌だと思い、思い切って挙手しました。当日はもちろん緊張しましたが、現地の学生が頷きながら聞いてくれたり、積極的に質問してくれたりしたため、楽しく終えることが出来ました。選択する時は、ネガティブなことばかりを考えてしまいがちですが、実際にやってみると自分にとってプラスになることばかりでした。今でもあの時は挑戦してよかったと思っています。他にも、滞在中は地域の牧場や教会を見学させてもらう機会が多くありました。そのような活動の最後には任意で感想や自分の考えを言うチャンスが多くあるため、そのチャンスを掴んで積極的に現地の人と会話をするようにしました。もし、1回で伝わらなければ、他の言い方で言ってみました。もしそれで伝わると、「1回目の英語は現地では伝わらないんだな。」と学習することが出来ました。

2つ目は、身についた能力というよりも、現地の人と関わって学んだこととなりますが、家族という時間や自分の生活を充実させる大切さです。私は、当時初めてアメリカを訪れて、現地の人の生活感にとっても驚き、憧れました。私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、5歳の男の子、そして2匹の犬でした。ホストマザーは仕事に行く前に犬とランニングに行ったり、地域のヨガ教室に行ったりして、一旦家でシャワーを浴びてから仕事に行くというモーニングルーティーンでした。私も一緒に行きたいと言うと、喜んで連れて行ってくれました。朝から汗をかいて1日がスタートするのは本当に気持ち良かったです。ホストファザーは仕事と両立しながらホストマザーと協力していつも家事や子どもの面倒を見ていました。また、ウィスコンシン州は広大な自然に囲まれた緑いっぱいの場所だったため、遊びは普段から自然の中で体を動かしてするものが多いようで、私もアイスフィッシングやスノーボードをして一緒に遊んだり、休日はホストファザーの実家に行って雪の中で焚火をしたり、ジェット機に乗って雪の中を思いっきり走ったりして遊ばせてもらいました。5歳の男の子も自然の中で遊ぶことが大好きで、1日中体を動かすのでいつも決まって7時には就寝し、6時前には起床していました。後から他のホストファミリーにお世話になった友達とお互いのホストファミリーについて話してみると、他の家もそのような生活リズムの良い生活をしているようでした。そして、私のホストマザーは夜子どもを寝かせた後も、夜も走ったり自転車を漕いだりして運動していました。私が「どうしてそんなに運動するの？」と聞くと「大会のためでもなく、ダイエットのためでもなく、自分の心の健康のためよ！」とホストマザーは言いました。運動をそのような感覚でするのはとても素敵なことだなと感銘を受けました。このように現地の人からは仕事だけでなく、生活の中で家族と過ごす時間や自分の時間を大切にしている様子が伺えました。研修を通して、自身の生活感にも大きな変化が得られました。

3つ目は、多文化交流に必要な能力です。滞在期間中、私達全員1人1人にバディー（ラスロス校学

生)がお世話係としてついてくれました。私のバザーは、滞在期間中、私を遊びに誘ってくれたり、お家に招待してくれたりして、私と積極的に関わろうとしてくれました。私の未熟な英語にも根気強く付き合ってくれ様々なことを教えてくれました。異国の地で右も左も分からない私に優しく接してくれ、とても心強い存在でした。2年前に帰国して以来、今でもほぼ毎日連絡を取り合っています。この研修期間中にバディーとしてこの子に出会えて本当に良かったと思っています。私ばかりが「仲良くなりたい」と努力してもここまで仲良くなれなかつただろうと思うし、その子も現地のことを色々教えてくれ、逆に日本のことも知ろうとしてくれたからこそ、仲良くなれたと思います。私はこの友達に異文化交流をする上で大切なことを教えてもらいました。私も本大学に留学に来る学生や日本を訪れる外国人の方に、そのような態度で接し、私がウィスコンシン州を訪れた時のように、安心でき、楽しめるような環境を作ることに関わりたいと思います。

この3つが研修を通して私が得たものです。文字で読むのと実際に行って自分で体験するのでは全く違うと思うので、自分が何に心動かされるのか楽しみにぜひ現地を訪れてみてください！

【⑤ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修】研修体験報告書（2）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 1年 女性
研修期間	2020年2月27日～2020年3月18日
研修先の国、研修先・訪問先	国：アメリカ合衆国（ウィスコンシン州） 研修先・訪問先：ウィスコンシン大学ラクロス校
研修参加目的・動機など	<p>中学時代からの英語への苦手意識を払拭するため。また、日本で学ぶ「外国語」ではなく、コミュニケーション手段としての「英会話」を直に学びたかったから。</p> <p>高校時代から留学に行きたいと口にはしていたものの、なかなか実行に移す勇気が出なかったが、大学生になった今だからこそ、勇気を出して挑戦してみようと思ったから。</p>
研修参加を考え始めた時期	大学入学時
求められた語学力 及び具体的な準備内容	<p>(求められた語学力)</p> <p>日本に興味のある外国人と日常会話ができる程度の英語力（少し日本語が話せる人もいたため）</p> <p>(準備内容)</p> <p>英検の取得、英語習得院での勉強、youtubeで英会話のコツを把握</p>
情報収集方法	以前、留学に参加した先輩方、youtubeの動画
居住環境	<p>ホームステイ先：一人一部屋、シャワー、バスタブ有（バスタブは使用しなかった）</p> <p>ホテル：日本のホテル同様の設備、ジム、プール完備</p>
研修先に持参した方がよいもの	メモ帳、クレジットカード、洗濯ネット、マスク、浴衣、折り紙等
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	日本より安いものもあるが、食費は高め。量が多いため。
研修の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	<p>総額 約50万円程度</p> <p>分かる方は内訳も記入してください。</p> <p>※内研修費用 38万円（8万は奨学金で免除されました）</p>
治安状況	悪くない。

<p>その他注意すべき事項</p>	<p>ホームステイ中は、ホストファミリーにもよるが、日本人と異なり、夜は早めに寝て朝シャワーを浴びる人が多いので、夜は静かに過ごしたほうが良い。浴衣を着る場面が多かったため、ヒートテックとタイツは持っておいた方が良い。</p> <p>日本のアニメ文化が好きな人が多いので勉強していくと◎！</p>
-------------------	--

留学・短期研修等体験レポート（自由記述）

私が留学を経験して身に付いたことは大きく分けて二つある。

一つ目は「英語のリスニング力」である。私たち日本人がどうやって日本語を習得したのか考えてみると、生まれたときから日本語を「聞いていた」ことが大きな要因であることに気付いた。つまり、言語を習得するには、聞くことから始めるべきなのである。しかし、日本では小学校から単語を習い、中学校で長文や文法を、高校ではさらに深い内容の文法や熟語を学ぶのが一般的である。つまり、リスニングよりもリーディングやライティングを重視しており、芯から身に付くカリキュラムになっていないように思う。この留学で、英語しか聞こえない環境に身を置くことにより、どの学修方法よりもリスニング力が上がったように感じている。それを一番感じることができたのは、帰国前夜にお世話になった人達とピザパーティーをしたときである。初めて会った時は全く聞き取れず通訳をしてもらわなければ会話が成り立たなかったが、一時間でも二時間でも通訳なしで聞き取れるようになっていた。聞き取ることができると、自分の知っている単語や文法を組み合わせて、返答することができ、会話が成り立つようになった。さらに、返答する際の単語、文法、イディオムが分からないという状況になったときも、「次は答えられるようにしよう」「後でこの単語を調べよう」と次につながる意欲も湧いた。以上のことから、リスニング力を鍛えることは言語を学ぶ際に最も大切なことの一つであると思った。その一片を一か月間の留学で得ることができ、本当に良かったと思う。

二つ目は「有言実行力」である。私は高校時代から「留学に行きたい」と口には出していたが、実際に本気で行こうと考えたことはなく、いつか行けたらという軽い気持ちで話していた。しかし大学に入っても勇気が出ず、周りとは違う行動をとることに不安を覚え、留学についても「大学中に行けたら」くらいでしか考えていなかった。そんな「行く行く詐欺」のような状態がどうしても嫌で、何とかして自分に自信を付けたいと思い、今回の留学に応募した。私にとっては留学に行くという行為そのものが未知の経験であり、自分の人生で起こらないイレギュラーなものと捉えていたため、最初はとにかく緊張した。しかし、先生方や留学メンバー、連携推進課の方々、家族のサポートのおかげで貴重な経験ができていると感じた時、悔いがないように思い切り挑戦したいという気持ちが出るようになった。その結果、留学先でのコミュニケーションを積極的に行えるようになり、前の私ならやらなかったであろうディスカッションのメンバーに立候補するまでになった。留学後も、挑戦するか悩んでいた英検や副免取得を決め、サークルでも普段は出ないダンスバトルに応募したりした。現在でも、その影響は続いており、留学前の自分とは異なり、変化や新しいものを恐れず受け止めようという気持ちが大きくなっているように思う。自分が言ったことは最後までやり通し、挑戦し続けようという考えをもつことができたのは、留学経験があったからこそだと思っている。語学留学目的でいった研修であったが、私にとっては人間的な成長を促してくれる期間にもなったと感じている。

これら二つ以外にも留学には様々なメリットがある。外国人の友達ができたり、日本とは異なる文化を知れたり、逆に日本の文化を好いてくれる人の話を聞いて日本をより好きになったり、と挙げればきりが無いほどだ。ただ、さきほど挙げた二つの能力はどんな職業に就いたとしても必ず役に立つものであると考える。特に、教員になる上では、小学校低学年から英語を学び始めている近年、英語を芯から知っている能力が必要となってくる。子どもたちに言語を教えることは並大抵のものではないかもしれないが、最初にリスニング力を付けさせることで中学・高校・大学・さらには社会での活躍の幅も大きく広がってくると思う。また、他の活動でもやると決めたことや新しい挑戦を積極的に行うことで、児童、保護者との信頼関係を結び、小学校教育の発展に少しでも関わることができれば、教師としての活動の充実性がかなり違ってくると思う。自分自身の将来のためにも短い期間ではあったが、留学を通して学んだこと、感じたこと、経験したことを糧に有意義な生活を送っていければと思っている。

【⑤ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修】研修体験報告書（3）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 1年 女性
研修期間	2020年2月27日～2020年3月18日
研修先の国、研修先・訪問先	国：アメリカ合衆国（ウィスコンシン州） 研修先・訪問先：ウィスコンシン大学ラクロス校
研修参加目的・動機など	ホームステイでアメリカの生活や文化を体験したり、大学の教師から英語の授業を受けたりできる機会が凝縮されていることと、幼稚園から大学まで訪問することができることに魅力を感じて参加しました。
研修参加を考え始めた時期	2019年秋
求められた語学力 及び具体的な準備内容	(求められた語学力) 特になし (準備内容) 日本文化のポートフォリオ 現地の学校で教える折り紙の折り方を模造紙にまとめた
情報収集方法	昨年研修に参加した学生
居住環境	1週間ホームステイ、2週間ホテルステイ
研修先に持参した方がよいもの	防寒具、日本のお菓子
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	あまり変わらない。
研修の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	総額 約483,050円 分かる方は内訳も記入してください。 例：フライト料金 171,020円 研修費用 229,000円 海外旅行保険 13,030円 その他（お土産代、食費など）700ドル
治安状況	安全

その他注意すべき事項	なし
------------	----

留学・短期研修等体験レポート（自由記述）

私は、2020年2月27日から3月18日までアメリカのウィスコンシン大学ラクロス校の語学研修に参加しました。ここでの経験は、一つとして忘れられないものとなりました。もともと洋楽や洋画が好きだったこともあり、アメリカの文化を生で感じる事ができた上に、自分の好きなことを共有できてとても嬉しかったです。

ウィスコンシン州のラクロスという町は、山や川に囲まれ自然の中を散策でき、クラシカルな街並みやおいしいお店もありとても過ごしやすい場所です。私たちは、約3週間の滞在のうち最初の1週間はホームステイ、残りの2週間はホテルステイで、大学で英語やアメリカの文化についての授業を受けたり、小学校などの学校を訪問して折り紙を教えたりしました。この体験を通して、英語のスキルの向上や日本とアメリカを比較することができました。その中で、同年代の大学生と交流したことが一番印象に残っています。私は同い年の学生とバディを組み、一緒に大学のカフェに行ったり、町を散歩したりしました。彼女は、私と同じ夢である小学校教師を目指していて「どの学年を持ちたいか」、「なぜ教師になりたいか」などを話し、刺激を受けました。また、私は彼女とその友人と6人で一緒に遊ぶ機会があり、そこでアメリカの多様性を実感することができました。彼女はロシアにルーツを持ち、彼女の友達それぞれドイツ、インド、スウェーデンと異なるルーツを持っていました。みんなそれぞれ違った宗教や文化について英語で会話し、とても盛り上がりました。生まれたところや育った環境が違ってそれを気にせず楽しめることに気づきました。このおかげで、残りの滞在を日本人としてだけでなく、一人の人間としての私でも過ごすことができたと思います。

アメリカは、このように多様性にあふれた国であるため様々な習慣やイベントがあります。例えば、毎週金曜日は魚を食べるという習慣があります。これはキリスト教の習慣の一つで、私の中にあつたアメリカ人は肉しか食べないというイメージが覆されました。3月中旬には「セントパトリックス・デー」という世界的なお祭りの日を体験しました。アイルランドを起源とし、町中が緑色で染まる日です。今回、お祭りは中止となってしまいましたが、緑色のドリンクを飲んだり、緑色のアイテムを身に付けたり、まだ日本に馴染みのない文化に触れることができました。

これまで、私は自身のことを人見知りだと思っていましたが、気づけば自分からたくさんの人と会話していました。言語の壁にぶつかり、自分を情けなく思うこともありましたが、3週間で多くの人に出会い、様々な習慣や文化に触れることができました。自分の英語にも少しは自信がついたと思います。今でも一緒に研修に行った友人とウィスコンシン州での思い出を話したり、写真を見返したりしています。またウィスコンシン州に赴き、そこで出会ったたくさんの人々と再会したいです。そしてこの経験を生かしてこれからも英語の勉強に励み、海外についてさらに学んでいきたいと思っています。

【⑤ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修】研修体験報告書（４）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 1年 男性
研修期間	2020年2月28日～2020年3月18日
研修先の国、研修先・訪問先	国：アメリカ合衆国（ウィスコンシン州） 研修先・訪問先：ウィスコンシン大学 ラクロス校
研修参加目的・動機など	アメリカの文化に触れることと、英語力の向上。短い期間ではあるが、実際に行き積極的に活動することで得られるものがあると思ったので参加した。
研修参加を考え始めた時期	2019年の秋。本研修の募集が開始されたころ。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	(求められた語学力) 高校英語程度の英語力があれば大丈夫だと思います。 (準備内容) 特になし
情報収集方法	先輩に話を聞いた。
居住環境	良好。二人部屋。
研修先に持参した方がよいもの	・日本らしい、気持ち程度のお土産（仲良くなった人にあげると喜ばれます。） ・飲みなれた薬 ・十分な防寒具
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	あまり変わらないが、少し高いと感じた。
研修の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	総額 およそ50万円 分かる方は内訳も記入してください。 例：フライト料金 20万円弱 研修費用 20万円強 海外旅行保険 1万円程度 その他（お土産代、食費など） 私は10万円以内に収まりました。
治安状況	治安はいい。しかし夜間に一人で外出することは控えるべき。

<p>その他注意すべき事項</p>	<p>・行き帰りのフライトは10時間を超える長時間のものになるため、クッションやアイマスクなど、自分が快適に過ごせるアイテムを持っていくと良いかもしれません。</p>
<p>留学・短期研修等体験レポート（自由記述）</p>	
<p>私が体験したのはたった3週間の研修でしたが、レオナルド先生や連携推進課の皆さん、一緒に行った福教大の友人たち、現地で出会ったたくさんの人たちのおかげで、一生の財産となるような素晴らしい経験をすることが出来ました。話し出すときりがないので端的にまとめますと、①アメリカ文化に直接触れた。②海外の人に対し、臆せず英語で話しかけられるようになった。この2つです。簡単にですが、お話ししたいとおもいます。</p> <p>まず①ですが、アメリカでの経験は、僕にとって全てが初めてで新鮮でした。行きの飛行機では上空からロッキー山脈を見下ろし、アメリカの広大な大地に驚きました。滞在中はいろんな所を回ったり、いろんな人と話したりして、常にワクワクしていました。プログラム中、最初の10日間はホームステイでホストファミリーの家でお世話になり、残りはホテルで過ごしました。昼間はプログラムに従って活動し、夕方からは各々で自由に過ごすというものです。プログラムでは、大学で現地の大学生と交流したり、現地の学校を巡り、文化交流をしたりしました。また、休日は自由に過ごすことができ、この研修では「バディ」というパートナーの学生が一人ついてくれるのですが、その人と一緒に遊びに行くことが出来ました。これらの活動の中で常に新しい発見があり、驚きがありました。まず、当然ながらいろんな人種の方がいて、学校でも様々な肌の色、髪の色、顔立ちをした子どもたちがたくさんいました。また、肥満大国と呼ばれるだけあって大きな方が多かったです。面白かったのが、ある店の洋服売り場に立ち寄った時に、いろんな体系のマネキンがいたのです。太っているもの、ちょっとぽっちゃりしているもの、普通体系のもの、細いもの、様々でした。日本ではなかなか見ない光景だと思います。また、きれいな景色を味わうことが出来ました。ウィスコンシン州にはミシシッピ川が通っており、シンボルのようなものです。私たちが行ったのは雪解けの季節だったので、川岸に大きな氷が浮かんでいて、それがキラキラと輝いてとても美しかったです。その他にも素晴らしい体験をたくさんしましたが、語りつくせないので割愛します。</p> <p>次に②についてです。私は3週間アメリカに滞在することで、英語で人と話すことに躊躇しなくなりました。もちろん、とても短い期間でしたので「ペラペラ」話せるレベルまで行くことはできませんでしたが、しかし、研修が終わる頃には相手と会話をする中で、英語のリズムや抑揚の付け方、伝わりやすい文の長さをなんとなく掴むことが出来ました。また、頭の中で日本語を介さずに、英語で文を組み立てることも少しずつ出来るようになっていました。これは、現地での会話や店での注文で必然的に英語を使うため、耳と脳が慣れてきたからだだと思います。私の場合、現地での人間関係に本当に恵まれていたので、分かりやすくはっきり話してくれたり、聞き返すと別の表現で言い換えたりしてくれる人が多く、英語で話すことが苦痛だと思うことはありませんでした。むしろ、自分の英語が相手に伝わるのが本当に楽しかったです。会話の中で失敗と成功を繰り返すことで、英語で話すことに抵抗がなくなったのだと思います。</p> <p>以上が私の簡単な体験記になります。この研修に申し込もうとしている方の目的は様々だと思います。しかし、実際に行ってみるとそれぞれの期待以上のものが手に入ると思います。迷っている方はぜひ挑戦してほしいです。頑張ってください。</p>	

【⑤ウィスコンシン大学ラクロス校短期研修】研修体験報告書（5）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 1年 男性
研修期間	2020年2月27日～2020年3月19日
研修先の国、研修先・訪問先	国：アメリカ合衆国（ウィスコンシン州） 研修先・訪問先：ウィスコンシン大学ラクロス校
研修参加目的・動機など	アメリカの文化や英語を学びたい、という理由もあったが、漠然とアメリカに行きたいと思った。そのときにこのプログラムのことを知り、過去にこのプログラムに参加した先輩方にも強く勧められて、参加しようと思った。
研修参加を考え始めた時期	2019年7月
求められた語学力 及び具体的な準備内容	（求められた語学力） 特にない。コミュニケーションをとりたいと思う意思が必要だと考える。 （準備内容） せっかくだと行くのならなにを学びたいかの対象を見つけておくにより有意義な時間になると考える。
情報収集方法	過去に参加した先輩。連携推進課の職員の方々。
居住環境	ホームステイとホテルでの宿泊の組み合わせ。どちらもとても快適
研修先に持参した方がよいもの	持参するものは研修する前に指示される。
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	高い。レストランでの食事は1200円した。レストランでは節約しようとしても1000円程度はした。
研修の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	総額 47万円 （研修費や保険やお土産代すべてこみ）
治安状況	問題ないと感じた。
その他注意すべき事項	特にない。

①研修によって身についた能力

三週間程度で英語力を上達させることは難しいが、外国人と話す際のコミュニケーション能力が上がった実感がある。とくにそう感じたのがジョークを言えるようになったことだ。研修の初めのほうでは、英語で「会話してもらっている」と感じてしまうのが悔しくて、話すのが苦痛に近かったが、研修の最後のほうでは、笑わせてやろうということを考えながらウケを狙っていた。そのおかげで何人かと仲良くなれた。しかし、コミュニケーション能力の向上には弊害もあった。英語力の向上を目的の一つにしていたのだが、きちんとした英語を話せなくても会話できるようなテクニックを無意識に身につけてしまっていたのだ。表情や、オウム返しや聞き取れなかったら素直に言って説明してもらおうことや、なにか言われたら「cool!」ということなどだ。そう、出川イングリッシュは本当に有効だったのだ。

まとめると、自分の英語力の低さに気づき、それを補うべく英語コミュニケーション力を身につけることはできたが、それは英語力の向上とはまた別の話だったということに気づいたわけだ。しかし、これは私にとって大きな経験だった。英語でコミュニケーションをとるとはどういうことか、これからどのように練習するべきなのかをこの研修を経て真剣に考えることができた。そして、外国人に話しかける抵抗も以前よりなくなったので、「練習練習。」と、思いながら日本にいる外国人に英語で話しかけることができるようになった。

これらの経験によって、時間はかかるかもしれないが、私は英語をある程度は話せるようになるだろうと思う。そのような自信つけることができたこと、そしてこれからの英語学習のためのインセンティブになったこと、これらは私にとって大きな収穫の一つだ。

②研修のどういう部分が教員になる上で役に立ったか

教員になるうえで役に立つだろうと思える部分はいくつもある。異文化に実際に触れたので、異文化理解の観点から子供に話をできることや、人より英語に対する抵抗が低くなったことなどだ。その中でも特に強く感じたのが、やさしさや愛だ。

研修先では、アメリカの学生やホームステイファミリーが驚くほど優しくしてくれた。なぜここまでしてくれるのかと何度も思った。研修で来たというだけなのに、申し訳ないくらいのおもてなしを受けた。私を家族や友達のように扱ってくれた。「thank you」ばかり言っている自分が情けなくなるくらいだった。このとき、私は、きちんとお礼を言って、一生懸命に楽しむことしかできなかった。そのため、自分が大人になったらホストファミリーになってその子にやさしくすることや、福岡教育大学にいる留学生や、また、究極的に他人にやさしくすることで恩返しをし、やさしさをつなげていきたいと思った。

そして、現在、福岡教育大学の留学生とご縁があり、連絡を取ることができた。おせっかいながら、有意義な日本での生活を送れるようなお手伝いをさせてもらっている。このように、人に無条件にやさしくしようと思える心を育ててくれたホストファミリーやアメリカの学生に感謝している。